

機械工学科			コンピュータリテラシー				
学年	第1学年	担当教員名	小杉 淳				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		レポート作成などに必要となるコンピュータの操作に関する十分なスキルを体得する。 内容はアプリケーション機能の解説を通してコンピュータ処理の利点や用法について演習主体に教授し、アプリケーション・ソフトウェアの基本的な理解と活用能力を養う。					
		釧路高専目標	C:70%,F:30%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		レポートはサーバー内の指定フォルダーに提出する。そのため、授業当初のユーザ登録やメール設定は確実にしておくこと。使用教室は情報処理センター第2演習室である。欠課や演習遅れの際は、放課後あるいは昼休みに補習を行う。					
到達目標		Mailなどのインターネット環境を充分に利用でき、代表的アプリケーションソフトウェアであるMicrosoft社Office(Word,Excel,Power Point)を、レポート類や各種発表における資料の作成に活用できる。					
成績評価方法		合否判定:課題提出率が100%であり、かつ到達度確認問題において60点以上を取得すること 最終評価:課題提出物(70%)+到達度確認問題(20%)+授業態度(10%)					
テキスト・参考書		教科書:日本文教出版 IT Literacy プラクティス「情報モラル編」,「Word編」, 「Excel基礎編」,「Excel応用編」,「Power Point編」 参考書:一般的なOffice入門書(たとえば、はじめてのMicrosoft Officeシリーズ(工学社)、					
メッセージ		最初は、コンピュータ操作の経験によっては大きく差が生じます。しかし、遅れ気味な人でも、着実に演習を消化していけば、十分なスキルが身に付きます。休まない、授業中は集中する、演習に手を抜かないなどの基本的な学習姿勢が大切です。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1.ガイダンス(情報処理センターの利用方法,インターネット講習)(1回) 2.メール設定、インターネットのルールとマナー,情報モラル(1回) 3.MS-Wordによる文章作成の基礎(飲食店メニューの作成)(1回) 4.MS-Wordによる文章作成の基礎(簡易履歴書の作成)(1回) 5.MS-Wordによる文章作成の応用(機械工学科の広告を作る)(1回)			1.情報処理センターにおけるPCの利用方法やインターネットを利用する上での注意点が理解できる。 2.情報モラルを順守しメール発信およびインターネット検索ができる。 3.Wordの画面構成、書式設定などについて理解でき、目的の文章入力と体裁を整えることができる。 4.表やクリップアート、画像等を挿入した文章の作成方法やテキストボックスの使い方が理解できる。 5.図形描画やレイアウトも使い総合的な文書作成を行うことができる。 6.Excelの画面構成、セル操作、罫線操作について理解でき簡単な表が作成できる。				
後期中間試験			実施しない				
9.応用演習(2回) 10.MS-Power pointによるプレゼンテーションの基礎(1回) 11.MS-Power pointによるプレゼンテーションの基礎(1回) 12.MS-Power pointによるプレゼンテーション作成(自分の将来、機械工学科のPR)(2回) 13.MS-Power pointによるプレゼンテーションの実践			9.図表、グラフが混在する実験報告書を作成できる。 10.PowerPointの画面構成やテキスト入力、書式設定等について理解できる。 11.アニメーション機能や効果的なプレゼンテーション方法が理解できる。 12.プレゼンテーションの要点を理解し、目的の資料作成ができる。 13.PowerPointを使ったプレゼン方法やリハーサル機能が理解できる。				
後期期末試験			実施しない				

機械工学科		英語					
学年	第1学年	担当教員名	伊関 敏之				
単位数・期間		6単位	通年	週当りの開講回数	3回	必修	履修単位
授業の目標と概要		教科書、単熟語集、その他自主教材を活用することによって、基礎的な単熟語、基本的な文法知識の習得、平易な英文の読解力の向上、やさしい英語による表現力の向上を目指すと同時に、適宜リスニング教材を用いて、聞き取り能力の向上も目指す。釧路高専目標(F-6) JABEE(f)					
		釧路高専目標	F:100%	JABEE目標	f		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		毎週(年15回)単熟語集から出題する「単語テスト」を実施する。 年に3回(7月上旬、11月下旬、2月中旬)、英語検定形式の実力試験(英検模試)を授業時間内で実施する。					
到達目標		英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要な基礎的な英語力を習得できる。					
成績評価方法		定期テストの成績を60%、単語テストの成績を20%、英検テストの成績を20%として、その合計点を英語の成績とする。ただし、左の合計点が60点以上の場合にのみ、それに平常点(英検3級以上、提出物、授業態度等)を10%を上限として加算減算することがある。					
テキスト・参考書		教科書:Power On English (東京書籍) 参考書:英検pass 単熟語3級[改訂版](旺文社) 英検pass 単熟語準2級[改訂版](旺文社) ファーストドリル 高校英語(文英堂) ジーニアス英和辞典[第4版](大修館)					
メッセージ		外国語の勉強は、目で見て、耳で聞いて、口に出して発音して、手で書いてみることの繰り返しが基本です。そのような作業を十分にやりながら、慣れることが何よりも大切です。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
(1) 教科書:Lesson 1,2 (2) 単語テスト:No.1 No.5 (3) 文法項目の理解など(21回)			(1) 内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 (2) 単熟語集の語句の意味が言える。 (3) 大切な文法事項などが理解できる。				
前期中間試験			実施する				
(1) 教科書:Lesson 3,4,5 (2) 単語テスト:No.6 8 (3) 文法項目の理解など(24回)			(1) 内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 (2) 単熟語集の語句の意味が言える。 (3) 大切な文法事項などが理解できる。				
前期期末試験			実施する				
(1) 教科書:Lesson 6,7,8 (2) 単語テスト:No.9 12 (3) 文法事項の理解など(24回)			(1) 内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 (2) 単熟語集の語句の意味が言える。 (3) 大切な文法事項などが理解できる。				
後期中間試験			実施する				
(1) 教科書:Lesson 9,10 (2) 単語テスト:No.13 15 (3) 文法事項の理解など(21回)			(1) 内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 (2) 単熟語集の語句の意味が言える。 (3) 大切な文法事項などが理解できる。				
後期期末試験			実施する				

機械工学科			音楽				
学年	第1学年	担当教員名	高橋 久美子				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修選択	履修単位
授業の目標と概要		音楽美を理解し、感得することで創造的活動と知的陶冶に結びつけ、高尚な美的情操と豊かな人間性を養うことに目標を置く。生活の中に高尚な趣味を持ち、美的判断を高め、円満な人間形成ができるようになる。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		リコーダー、ギター、キーボードを大切に使用する。 音を出すことに責任を持てるようにする。					
到達目標		音楽の基本的な表現に必要な技能を修得できる。 音楽経験を豊かにするために必要な知識を理解できる。 優れた音楽に親しみ、音楽の美しさを味わって聞くことができる。					
成績評価方法		前期の基礎的実技テスト(個人の歌唱、器楽奏、グループ奏)30% 後期の応用敵実技テスト(個人の作曲、グループ作曲、指揮等)30% 音楽史、楽典、聴音などの学習時の提出物30% 授業態度10%					
テキスト・参考書		教科書 高校音楽Ⅰ 改訂版 (教育出版) DVD、CD、総譜など					
メッセージ		実技の練習は効率的に行うこと。 友人同士で助け合うことが大切です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 音楽のなりたち アフリカの音楽 (1回) 2 日本の音楽 滝廉太郎・山田耕筰の世界 (2回) 3 歌曲の表現 (2回) 4 器楽曲の表現 (2回) 5 ヨーロッパの音楽(導入) (1回)				・音から音楽について知る。新曲のリズム奏ができる。 ・雅楽から現代曲まで学ぶことができる。 ・曲の意味を理解し、正しく演奏できる。 ・楽器の特性を知り、生かして演奏できる。 ・「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞ができる。			
前期中間試験				実施しない			
6 ドイツの音楽 (1回) 7 聴音から記譜の方法 (2回) 8 イタリアの音楽 (1回) 9 調性について、友人と作曲する (2回) 10 フランスの音楽 (1回)				・代表的作曲家3大Bについて学ぶことができる。 ・楽曲を知ることができる。 ・イタリア語で歌うことができる。 ・グループで考えて、短い曲を作ることができる。 ・ショパンについて学ぶことができる。			
前期期末試験				実施しない			
11 スペインの音楽 (1回) 12 コードを組み立てる (2回) 13 ロシアの音楽、東洋の音楽 (1回) 14 北欧の音楽 (1回) 15 イギリス、アメリカの音楽 (2回)				・「カルメン」を鑑賞できる。 ・ギターやキーボードに生かし、演奏できる。 ・拍子の学習をし、指揮の練習ができる。 ・「フィンランディア」のスコアを学習することができる。 ・「グリーンスリーブス」のアンサンブルができる。			
後期中間試験				実施しない			
16 聴音からの創作 (2回) 17 南米の音楽 (1回) 18 形式について 和音の使い方 (2回) 19 アジアの音楽 (1回) 20 作詞、作曲表現として挿し絵をつける (2回)				・友人の曲を聞き合う。 ・歌詞と音符を正しく使うことができる。 ・コード進行を考えて短い曲を作ることができる。 ・リズム、メロディ、ハーモニーを理解し、実践できる。 ・正しく記譜することができる。			
後期期末試験				実施しない			

機械工学科			化学				
学年	第1学年	担当教員名	本多 正孝				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		化学は自然科学のうち、物質に関する分野を扱う。物質は多様であり、変化が複雑である。これらを原子の挙動として説明する。基本的原理・法則、そして各元素について扱う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		説明の後、毎回確認シートを使います。その他、演示実験や小テストを行います。各章ごと問題集を使い演習を行いますので、電卓を使用する時もあります。					
到達目標		自然界の事物は多様であり、複雑である。化学の基本的原理・法則によりこれらを解明する能力を身に付けることができる。					
成績評価方法		定期試験(4回)の他、臨時の小試験を行う。 成績は、これらの平均で60%以上の時合格である。					
テキスト・参考書		高等学校化学1(東京書籍), 化学基礎ノート(数研出版)					
メッセージ		幅広い教養を身につけて欲しい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
原子とは何か(1回) 質量(3回) 化学結合(4回) 原子構造(4回) 物質質量(4回)			原子について理解し、元素記号を使える 原子量、分子量などについて学び、その計算ができる 化学結合について学び、分子・原子・イオンの違いを説明できる 原子の構造について学び、原子核、電子配置を説明できる 物質質量について学び、モルの計算をすることができる				
前期中間試験			実施する				
化学反応の法則(4回) 反応熱(4回) 中和反応(4回) pH(2回)			化学反応についての法則を理解し、反応式を書くことができる 化学反応に伴う熱量を理解し、熱化学方程式を書くことができる 酸塩基と中和反応について学び、その化学式を書くことができる pHとは何かを学び、中和滴定の計算をすることができる				
前期期末試験			実施する				
酸化還元反応(6回) 電池(3回) 電気分解(5回)			酸化・還元について理解し、化学反応を酸化・還元で説明できる 電池の仕組みについて理解し、その化学反応を説明できる 電気分解について学び、電気量の計算をすることができる				
後期中間試験			実施する				
元素の各論(16回)			多様な物質を、構成する元素により理解し、 する化学式を使って説明することができる。				
後期期末試験			実施する				

機械工学科			機械工学概論				
学年	第1学年	担当教員名	渡邊 聖司				
単位数・期間		1単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		機械工学科新入生への導入科目として、特定の狭い分野の知識・技術を学習するだけではなく、あらゆる事象に目を向け、その根底にある基礎・基本を身につけるために機械工学における数理的、実際の処理をする能力と数学や物理・科学の原理や手法を適用することによって、多くの事象も解明できる応用力や想像力を身につけることと、専門科目との結び付きを理解させ、学習に意欲的に取り組めるようにすることを目標とする。					
		釧路高専目標	C:80%,D:20%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		中学校で学んだ数学や科学の知識を多く使います。 わからない場合はオフィスアワーを利用したり、自主的に学習してください。 電卓は常時、使いますので忘れないようにしてください。 作図をする場合もあるので必要に応じてグラフ用紙(A4サイズ)や製図器、定規(直・三角)などを準備してください。					
到達目標		機械工学における数理的、実際の処理をする能力を身につけることができる。 高専や中学校の数学や物理・科学で学んだ原理や手法を適用し問題解決できる能力を身につけることができる。 技術文章の書き方の基礎を身につけることができる。 グラフ・図・表の書き方の基礎を身につけることができる。					
成績評価方法		合否判定:4回の定期試験の結果の平均が60点を超えていること。 最終評価:4回の定期試験の結果の平均(70%) + 学習ノート・小テストの平均(30%)					
テキスト・参考書		テキスト:自作プリント(学習ノート、資料、演習問題、小テスト) 参考書:学生のための初めて学ぶ機械工学(日刊工業新聞社・宮本武明、山本恭二監修)、新しい機械の教科書(オーム社・門田和雄著)、図説 機械用語事典[増補版](実教出版)、電卓取扱説明書(CASIO社)					
メッセージ		自作プリントを中心に講義を行ないます。疑問点や不明な点は必要に応じて講義中やオフィスアワーを利用して質問してください。 病欠や特別欠席などにより講義を欠席した場合は、自学自習の後、質問したり、オフィスアワーを利用して補講を受講するなど各自で考えて行動してください。 学習遅進学生には放課後を利用して年5～10回程度、指導や補習を行います。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ガイダンス、プレースメントテスト(1回)			講義内容と成績評価方法を理解することができる。				
2.プレースメントテストの解答・返却、機械工学って何?(1回)			機械、機械工学について理解を深めることができる。				
3.高専と中学(高校)の授業の違い(1回)			高専と中学(高校)の授業の違いを理解し、学ぶことができる。				
4.ノートの取り方、レポートの書き方 (2回)			高専で学ぶためのノートの取り方、レポートの書き方、質問のしかたを学ぶことができる。				
5.技術文章の書き方 (2回)			レポートなどの技術文章を書くための基礎を学ぶことができる。				
前期中間試験			実施する				
6.ノートの取り方、レポートの書き方 (2回)			高専で学ぶためのノートの取り方、レポートの書き方を学ぶことができる。				
7.技術文章の書き方 (2回)			レポートなどの技術文章を書くための基礎を学ぶことができる。				
8.グラフ・図・表の書き方(3回)			グラフ・図・表を書くための基礎を学ぶことができる。				
前期期末試験			実施する				
9.電卓の使い方(1回)			関数電卓の基本的な使い方を学ぶことができる。				
10.基礎的な数理 【面積・体積】(2回)			面積、黄金比、敷地計算と建ぺい率、地図から求める実際の面積、方眼を利用した面積の概算、体積の計算を理解し、学ぶことができる。				
11.基礎的な数理 【身近な工業事象】(2回)			走行時間と走行距離、電流と電圧の計算、そのグラフの作図を理解し、学ぶことができる。				
12.基礎的な数理 【高さと三角比】(1回)			三角比、三角関数を用いた計算と作図を理解し、学ぶことができる。				
13.技術文章の書き方 (1回)			レポートなどの技術文章を書くための基礎を学ぶことができる。				
後期中間試験			実施する				
14.単位と数値処理 【国際単位系(SI)】(2回)			国際単位系(SI)、量記号と単位記号、接頭語と指数を理解し、学ぶことができる。				
15.単位と数値処理 【組立単位の換算】(4回)			さまざまな組立単位の構成とその相互の換算を理解し、学ぶことができる。				
16.技術文章の書き方 (1回)			レポートなどの技術文章を書くための基礎を学ぶことができる。				
後期期末試験			実施する				

機械工学科			機械設計製図				
学年	第1学年	担当教員名	渡邊 聖司				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		社会に流通するさまざまな製品は、設計し図面に描かれてはじめて現実のものとなる。この科目の目的は、日本工業規格(JIS)に準拠した機械製図に関する基礎的な知識や機械製図を作画するための技術を修得し、製作図や設計図を正しく読み、図面を構成し、作成する基礎的な能力を身につけることである。					
		釧路高専目標	C:70%,D:20%,E:10%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		教科書、製図器、定規(直・三角)、グラフ用紙(A4、B4サイズ)が常に必要です。 作画は、誠実に作業し、課題図面などの提出期限を厳守してください。 製図器などは丁寧に扱うこと。また、忘れ物には注意してください。 講義内容は記憶するだけでなく、機会あることに応用するように努めてください。 わからない場合はオフィスアワーを利用したり、自主的に学習してください。					
到達目標		JIS B 0001機械製図に基づき、基礎的な機械要素の作画ができる。 製図が思考のための道具として利用できる。 工作実習において製作課題の図面が正確に理解できる。					
成績評価方法		合否判定:課題図面などの提出率が100%で、最終評価と同様の計算で60点を超えていること。 最終評価:課題図面などの評価の平均(作画態度を含む:60%) + 3回の定期試験の結果の平均と学習ノート(受講態度・ノートテイキングを含む:40%) 課題図面などの評価:正確さ30% + 明りょうさ30% + 丁寧さ30% + レイアウト・体裁10%(提出遅延は1日につき3点減点)					
テキスト・参考書		テキスト:機械設計製図(実教出版)、自作プリント(学習ノート、資料、課題) 参考書:図解力・製図力おちゃのこさいさい 図面って、どない描くねん! LEVEL0(日刊工業新聞社)、図面って、どない描くねん!(日刊工業新聞社)、初心者のための機械製図 第2版(森北出版)、新編JIS 機械製図 第3版(森北出版)、図説 機械用語事典[増補版](実教出版)					
メッセージ		作画は得意・不得意がありますが、迅速・正確・明りょう・丁寧を心掛けてください。疑問点や不明な点は必要に応じて講義中やオフィスアワーを利用して質問してください。病欠や特別欠席などにより講義を欠席した場合は、自学自習の後、オフィスアワーなどを利用して質問したり、補講を受講するなど各自で考えて行動してください。学習遅進(図面などの提出遅進)学生には、放課後を利用して年5回程度、指導を行います。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.ガイダンス、機械製図と他の専門科目との関連性、製図用具の確認 (1回)				機械製図と他の専門科目との関連性を理解することができる。			
2.クレイモデリングとスケッチ (7回)				立体図、三面図から3Dクレイモデルを制作し、各方向からの図形や立体図をスケッチすることにより、その関係を理解することができる。			
前期中間試験				実施しない			
3.機械製図の規格、製図用具とその使い方 (1回)				図面の役割と種類、製図の規格、製図用具(用紙・製図器とその他の用具)の使い方を理解し、身につけることができる。			
4.図面に用いる文字と線、基本的な図形のかき方 (3回)				図面に用いる文字や線、基本的な図形のかき方を身につけることができる。			
5.投影図のかき方 (3回)				第三角法による図面のかき方を身につけることができる。			
前期期末試験				実施する			
6.立体的な図示法 (3回)				等角図、キャビネット図のかき方を身につけることができる。			
7.展開図のかき方(立体造形) (4回)				展開図のかき方を身につけることができる。 展開図から立体を造形することにより両者の関係を理解することができる。			
後期中間試験				実施する			
8.製作図 製作図のあらまし (2回)				製作図、図面(図形)の尺度、図面の様式を理解でき、製作図のかき方と検図、材料記号、体積・質量計算を身につけることができる。			
9.製作図 図形の表し方 (5回)				製作図における正面図の選び方と配置、断面表示を身につけることができる。 製作図における特別な図示方法、線・図形の省略を身につけることができる。			
後期期末試験				実施する			

機械工学科			工作実習				
学年	第1学年	担当教員名	小杉 淳, 渡辺昌明				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		1.実技を通してもの作りの基本となる様々な加工方法や考え方について理解を深め、学んだことを報告書にまとめる能力を養う。2.機械製図や他の専門分野との関連を学び、機械工学の面白さ、重要性を認識する。3.複数人での作業ではチームワークを活用して加工計画や技術的な問題を話し合い解決策を見つける。4.クラス(42名)を4班に編成し、旋盤、手仕上げ・機械仕上げ、鍛造、分解組立て・創造実習の4テーマをローテーションによって進める。					
		釧路高専目標	D:70%,E:30%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		1.決められた服装を着用すること。 2.危険を伴う実習もあるので、安全には十分注意を払うこと。 3.筆記記具を持参すること。 4.レポート提出日は毎実習終了後2日後以内とする。期限厳守のこと。 5.補習の申し出があった場合は状況により実施するか判断する。					
到達目標		各実習種目の安全作業法を理解し、基本的な各加工方法・仕組み等が理解できる。 また、定められた書式で工作実習のレポートをわかり易く作成することができる。					
成績評価方法		合否判定:レポート提出率が100%であり、かつレポート遅延が10回以下。 最終評価:実習に対する取り組み状況・態度50%+レポートの内容・提出状況50%。 1成績評価の観点 実習中の取り組み姿勢・態度、機器類の取り扱い、後片付け、製作物の出来栄 レポート提出期限と内容					
テキスト・参考書		1.テキスト:自作テキスト 2.参考書:機械工作1・2(実教出版)、機械実習(実教出版)、機械実習(オーム社)					
メッセージ		実習は気構えが重要である。常に安全意識を持ち、積極的な取組みを期待する。またレポートは実習を行った手順や方法、結果をまとめるので、実習中はメモを取ることが大切。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.工作実習ガイダンス(前期1回) 2.旋盤基本実習(前期3回) ・旋盤実習の安全教育、旋盤の構造・機能と各部の名称、切削条件と基本操作、バイト(刃物)の種類、各種測定器の使用法、バイトの取付け ・段付きピンの製作:荒加工、仕上げ加工 3.手仕上げ実習(前期3回) ・手仕上げ安全教育、やすりの使用法、加工と測定器の使用法 ・平鋼けがき実習				1.実習を安全に行なうための注意がわかる 2.旋盤実習 ・旋盤の構造、機能が理解できる ・旋盤用バイトの種類、取付け方法が理解できる ・基本的な切削方法が理解できる 3.手仕上げ実習 ・やすりの使用法、切削方法が理解できる ・スコヤ、ノギス、トースカン等の使用法を理解できる ・けがき方法が理解できる			
前期中間試験				実施しない			
4.鍛造実習(前期3回) ・鍛造実習の安全教育、用具と使用法、材料の加熱、クサビの製作 5.分解・組立て実習(前期3回) ・VTRの分解と機械要素 ・小型エンジンの分解組立と構造理解 ・ゴカートの分解組立てと構造理解				4.鍛造実習 ・鍛造使用用具、大ハンマの使用法が理解できる。 ・回転炉の操作方法、加熱方法を理解できる。 ・先手、横座とクサビの加工方法が理解できる。 5.分解・組立て実習 ・工具の基本使用方法と得られた機械要素が理解できる。 ・小型エンジンの構造と分解組立時の注意が理解できる。 ・車の基本的な構造や各種機械要素の役割が理解できる。			
前期期末試験				実施しない			
6.旋盤実習(後期4回) ・段付きピン仕上げ加工 ・4号引張り試験片の製作 7.機械仕上げ実習(後期4回) ・各工作機械の安全教育、形削り盤、縦フライス盤、横フライス盤等の切削条件と基本操作 ・丸鋼4面体加工				6.旋盤実習 ・長物加工の方法が理解できる。 ・段付きピンの加工方法が理解できる。 ・引張り試験片の外径、曲面、総形加工の方法が理解できる。 7.機械仕上げ実習 ・形削り盤、縦型・横型フライス盤の構造、機能等を理解できる。 ・丸鋼4面体加工の注意点がわかる。			
後期中間試験				実施しない			
8.鍛造実習(後期4回) ・けがき針製作:伸ばし、ねじり、焼入れ ・平たがね製作:八角形化、刃付け、焼入れ 9.創造実習(後期4回) ・レゴブロックによるオリジナル機械の製作				8.鍛造実習 ・空気ハンマの操作方法、伸ばし加工法がわかる ・けがき針の伸ばし、ねじり加工焼入れがわかる ・平たがねの八角形化刃付け、焼入れがわかる 9.創造実習 ・機械要素を組合せ簡単な機構を作ることができる			
後期期末試験				実施しない			

機械工学科			国語				
学年	第1学年	担当教員名	加藤 岳人				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		古今の言語文化に触れ、それを読み解くことを通して、論理的な思考と記述技法習得の基礎固めを目指す。 言葉のきまりにしたがって言語表現を正確に音読するとともに、現代日本語を正しく表記する作法を身につける。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業中も国語辞典(電子辞書を含む)を活用して語彙を増やし、正確な聴き取りを心掛けるとともに、言語表現を公平な目で読み解き、考えたことをわかりやすい言葉で説明できるよう、読解力や表現力にも自ら磨きをかけてほしい。					
到達目標		・聴き取りやすい音読ができ、文脈に沿って言語表現を正しく解釈できる。 ・物事を客観的に捉え、根拠を示しつつそれを効果的に表現できる。 ・現代日本語を正確かつ丁寧に表記することができる。					
成績評価方法		定期試験の成績(90%)と「読書レポート」・「表記課題」等、提出物の内容(10%)により評価する。合否判定もこれに同じ。					
テキスト・参考書		テキスト:『新編国語総合』(東京書籍) 参考書:『新版 カラー版新国語便覧』(第一学習社) 『伝える力』(池上 彰 著 PHPビジネス新書)					
メッセージ		聴く・話す・書くという言葉を用いた表現活動は、他人への気づかいを欠くとき、独りよがりな振る舞いとなってしまいます。 積極的に授業に参加しながら、多様な他者とのコミュニケーション能力を高めましょう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス(2回) 2. 随想「隣の校庭」(3回) 3. 古文の基礎「児のそら寝」(4回) 4. 漢文の基礎「訓点・格言」(5回) 5. 表記トレーニング(7回)				1. 授業の目的、作業内容が理解できる。 2. キーワードの概念を理解することができる。 キーワードを関係づけることができる。 3. 仮名遣いの違いがわかる。助詞、助動詞の違いがわかる。音読ができる。 4. 返り点のルールが理解できる。基本的な送りがなの表記法がわかる。 書き下し文の概念がわかる。 5. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
前期中間試験				実施する			
6. 試験反省(1回) 7. 小説「とんかつ」(6回) 8. 随想「りんごのほっぺ」(4回) 9. 古文「徒然草」(5回) 10. 表記トレーニング(7回)				6. 個別の学習課題を発見することができる。 7. 登場人物の心情を類推できる。作品の主題を読みとることができる。 基本的な語句の意味がわかる。 8. 筆者の思いを想像することができる。 戦争について考え、意見を述べることができる。 9. 係り結びがわかる。基本的な古語の意味がわかる。正しく音読できる。 10. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
前期期末試験				実施する			
11. 試験反省(1回) 12. 漢文「故事」(3回) 13. 評論「おカネでは買えぬもの」(3回) 14. 小説「羅生門」(8回) 15. 表記トレーニング(7回)				11. 個別の学習課題を発見することができる。 12. 置き字が区別できる。基本的な句法がわかる。 書き下し文を書くことができる。 13. 語句の意味がわかる。論理展開を理解することができる。 14. 作品中の語句の意味がわかる。登場人物の論理を理解することができる。 15. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
後期中間試験				実施する			
16. 試験反省(1回) 17. 評論「カリヴァーとアリス」(5回) 18. 漢文「王昭君」(4回) 19. 古文「方丈記」(5回) 20. 表記トレーニング(7回)				16. 個別の学習課題を発見することができる。 17. 語句の意味がわかる。論理展開を理解することができる。 18. リズムよく音読できる。基本的な語句の意味がわかる。 語句を補って解釈できる。 19. リズムよく音読できる。基本的な語句の意味がわかる。 無常観について説明できる。 20. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
後期期末試験				実施する			



機械工学科			数学A				
学年	第1学年	担当教員名	阿部 義美				
単位数・期間		4単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		数学的な考え方や数式の計算技能を深め、方程式・不等式の解法を学ばせ、関数の概念を理解させる。関数の基本的な性質を習得させ、第2学年からの微分・積分に備える。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートすることが大切である。 授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。					
到達目標		基礎事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書と補助教材の問題の60 %は自分の力で解けるようになる。					
成績評価方法		試験の点数の平均点によって評価する(100 %)。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書		教科書：新訂 基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学I + A、II+B(数研出版)					
メッセージ		授業の内容を十分に理解するためにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらに後で復習することが大切である。 授業ノートは数学Bと別にすること。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス(0.5 回) 第1章 数と式の計算 ・整式の性質(7回) ・分数式の計算(3回) ・絶対値と平方根(2.5回) ・複素数(6回)			・整式の四則計算ができる。 ・整式の展開及び因数分解ができる。 ・因数定理を利用して高次式の因数分解ができる。 ・分数式の四則計算ができる。 ・絶対値、平方根の計算及び分母の有理化ができる。 ・複素数の四則計算ができる。 ・複素共役、絶対値を求めることができる。				
前期中間試験			実施する				
第2章 方程式と不等式 ・2次方程式(4回) ・いろいろな方程式(2 回) ・恒等式と等式の証明(2回) ・不等式とその証明(6回)			・2次方程式の解を判別し、求めることができる。 ・2次方程式の解と係数の関係を使うことができる。 ・いろいろな方程式を解くことができる。 ・恒等式を理解し、等式の証明ができる。 ・1次、2次不等式を解くことができる。 ・不等式の証明ができる。				
前期期末試験			実施する				
・集合と命題(2回) 第3章 関数とグラフ ・2次関数(5回) ・分数関数(3 回) ・無理関数(3 回) ・逆関数(2 回)			・集合の用語・記号を使うことができる。 ・命題の真偽を判定することができる。 ・命題の逆・裏・対偶を作成することができる。 ・1次・2次・分数・無理関数のグラフを書くことができる。 ・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・2次方程式、2次不等式をグラフを用いて解くことができる。 ・グラフの平行移動、対称移動ができる。 ・逆関数を求めることができる。				
後期中間試験			実施する				
第4章 指数関数と対数関数 ・指数関数(7回) (以下、時間が足りない場合は第2学年で学習する) ・対数関数(8回)			・指数法則を用いて、いろいろな指数計算ができる。 ・指数関数のグラフを書くことができる。 ・指数方程式・不等式を解くことができる。 (以下、時間が足りない場合は第2学年で学習する) ・対数計算ができる。 ・対数関数のグラフを書くことができる。 ・対数方程式・不等式を解くことができる。 ・常用対数を利用した問題を解くことができる。				
後期期末試験			実施する				

機械工学科			数学B				
学年	第1学年	担当教員名	池田 盛一				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		専門学科ですぐ必要となる三角関数の基本的な性質・公式・グラフを理解し、応用する力を養わせる。 後期後半では平面図形のうち直線の方程式を学習させる。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートすることが大切である。 授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。					
到達目標		基礎事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書と補助教材の問題の60 %は自分の力で解けるようになる。					
成績評価方法		試験の点数の平均点によって評価する(100 % )。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書		教科書：新訂基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学I + A、II + B(数研出版)					
メッセージ		授業ノートは数学Aと別にすること。 積極的に質問すること。 必ず復習すること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5 回) ・鋭角の三角比(1.5 回) ・鈍角の三角比(2 回) ・三角比の相互関係(1 回) ・三角形への応用(2 回)				・鋭角、鈍角の三角比を求めることができる。 ・三角関数表を使って簡単な応用問題が解ける。 ・正弦定理、余弦定理を利用して、辺や角を求めることができる。 ・三角形の面積を求めることができる。			
前期中間試験				実施する			
・一般角と弧度法(2 回) ・三角関数とその相互関係(2 回) ・三角関数のグラフ(4 回)				・弧度法を理解し、60 分法との関係が分かる。 ・一般角を理解し、三角関数の相互関係を説明できる。 ・三角関数のグラフがかけられる。 ・三角方程式、不等式を解くことができる。			
前期期末試験				実施する			
・加法定理(2 回) ・2倍角の公式、半角の公式(2 回) ・積を和差に直す公式、和差を積に直す公式(2 回) ・単振動の合成(1 回)				・加法定理とそれに関連する公式を使って計算できる。 ・和差と積の変換ができる。 ・正弦と余弦の2 つの三角関数を合成できる。			
後期中間試験				実施する			
・2点間の距離(2 回) ・内分点、重心(2 回) ・直線の方程式(2 回) ・2直線の平行と垂直関係(2 回)				・2点間の距離を計算できる。 ・内分点や重心の座標を計算できる。 ・直線の方程式を求めることができる。 ・2直線の平行・垂直の関係が分かる。			
後期期末試験				実施する			

機械工学科			体育				
学年	第1学年	担当教員名	恐神邦秀				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加すること。					
到達目標		個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。					
成績評価方法		運動への取り組み状況・意欲・協調性(70%)運動能力等(30%)とし、総合評価を行う。合否判定もこれに同じ。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。					
テキスト・参考書		参考書;イラストによる最新スポーツルール(大修館)					
メッセージ		屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加すること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・ガイダンス、レクリエーション (1回) ・バレーボール (基本練習) (2回)  バレーボール (応用ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回)				・1年の授業の流れと注意事項 ・オーバー、アンダーハンドパスを正確に行うことができる。 ・サーブを相手コートに入れることができる。 ・チーム内で協力しラリーの多いゲームができる。 ・自己の体力を確認することができる。 ・自己の運動能力を確認することができる。			
前期中間試験				実施しない			
・ソフトボール(基本練習) (2回) ソフトボール(ゲーム) (2回)  ・サッカー (基本練習) (2回)  サッカー (ゲーム) (2回)				・基本となるスローイングとキャッチングができる。 ・フライやゴロをキャッチすることができる。 ・基本的なルールを理解し、相互審判をしながらゲームを進めることができる。 ・インサイドキック(パス)が正確にできる。 ・身体のいろいろな部分でトラップができる。 ・インサイドかインフロントでシュートを打つ事ができる。 ・ゲームに必要なルールを理解できる。			
前期期末試験				実施しない			
・格技 柔道 基本練習 (2回)  柔道 応用練習 (2回)  柔道 試合 (1回) ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回)				・礼儀作法を理解し、重んじることができる。 ・受身ができる。 ・足技(送り足払い・出足払い)、投げ技(大腰・体落とし・背負い投げ)、寝技(けさ固め・横四方・上四方)ができる。 ・禁止事項を守り、怪我に注意しながら試合ができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。			
後期中間試験				実施しない			
・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回)  ・アイスホッケー(基本練習) (3回) アイスホッケー(ゲーム) (2回)				・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 ・スケーティング、ストップ、パス及びシュートができる。 ・怪我に注意しながらゲームを行うことができる			
後期期末試験				実施しない			

機械工学科			地理				
学年	第1学年	担当教員名	中西秋雄				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		教科書・地図帳・ノート、配布プリントなどを忘れないこと。 新聞の時事的記事やテレビの教養番組などに興味関心を持ち、世界の様々な地域の人々の生活や文化を理解する姿勢。					
到達目標		現代世界の地理的な諸課題についての考察はもとより、急速に進展する国際社会の下で、異文化理解の大切さと国際的な交流と協力を深め、国際平和に貢献する資質と姿勢を身につけることができる。					
成績評価方法		合否判定:定期考査(80%)、課題レポート(20%) 最終評価:合否判定の評価に授業中の取り組み(±10%)を含める。					
テキスト・参考書		教科書:「地理B - 世界をみつめる -」(教育出版) 参考書:「新詳高等地図」(帝国書院)「新編ビジュアル地理」(とうほう)					
メッセージ		これからの世界はますます国際化が進展します。 仕事や旅行などで海外に行く機会も多くなります。異文化理解の大切さを共に学びましょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
地理を学ぶ(世界の国々の大観)(2回) 世界の国々(国家と人種・民族・宗教)(2回) アメリカ合衆国(3回)			世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて追究し、異文化を理解し尊重することができる。更に、世界の人種・民族及び人間の生活・文化の特色を国家とも関連付けて理解するとともに、人間を取り巻く環境の多様性についても理解することができる。				
前期中間試験			実施しない				
ペルー・インド・南アジア(5回) ヨーロッパ・EU(2回) ヨーロッパの東西 - 東欧の民族問題(1回)			近隣諸国の生活・文化を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察し、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することができる。また、世界の人々の生活を産業と関連づけて理解できる。				
前期期末試験			実施する				
アフリカ - 自然、歴史的背景(3回) オセアニア・オーストラリア・ASEAN(3回) 中国(2回)			現代世界の地域構成を理解し、現代世界の国家、国家間の協力と統合などの動向を理解することができる。				
後期中間試験			実施しない				
大韓民国(1回) 変化するロシア連邦(2回) エネルギー・環境問題(3回) 世界の人口・食料問題(1回)			環境・エネルギー問題、人口・食料問題などの地球的課題を通して現代世界が抱えている諸問題を理解することができる。 また、日本や近隣諸国が取り組んでいる地球的課題を追究し、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解し、日本の役割などを考察できる。				
後期期末試験			実施する				

機械工学科			美術				
学年	第1学年	担当教員名	矢崎 憲治				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修選択	履修単位
授業の目標と概要		心をこめた創造的な作品づくり。豊かな感性、情操を引き出し表現に結び付けさせたい。制作を通して美術の楽しさを味わせたい。視覚を養い基礎的デッサン力を身につける。創造的発想に基づく内面の表現。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		制作に必要な道具を忘れないこと。 (6Fスケッチブック、図画鉛筆、消しゴム、絵の具セット一式等)					
到達目標		制作課題を受け止め表現することができる。					
成績評価方法		全制作作品の相対評価を軸に出欠、遅刻、授業準備、授業態度を含めた総合評価とする。 作品(80%) + 出欠・遅刻・授業の準備、授業態度(20%)					
テキスト・参考書		美術・その精神と表現(現代美術社刊) - 貸し出し制					
メッセージ		美術の楽しさ、おもしろさ、深さを体験しよう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1 ガイダンス・手のデッサン……(1回) 2 石膏(幾何学的模型)デッサン…(3回) 3 人物クロッキーA……(4回) 人物クロッキーB……(2回) 彩色(淡彩)			・美術の授業に関して留意すべき点を理解できる。 ・芸術の中で美術の特異性を理解できる。 ・制作に必要な道具、授業上の留意事項を理解できる。 ・形、量感、陰影、空間との関係が理解できる。 ・速写表現の要領を会得する ・しっかり見てモデルの特徴をとらえられる。 ・線の強弱、デフォルメの試みができる。 ・パレット、絵具、筆等使い方の基本を理解できる。 ・淡彩画の要領を会得できる。				
前期中間試験			実施しない				
4 イラスト「人間」 ・導入・構想のためのアイデアスケッチ ・整理、構成、表現方法の確認…(6回)			・イラストレーションを理解できる。 ・課題を受け止め具体的自己テーマを設定できる。 ・自己テーマにそって種々スケッチができる。 ・本番に向け作品化する為に整理し、構成できる。 ・表現方法を独創的に計画できる。				
前期期末試験			実施しない				
5 ・本番の制作(趣旨・感想文等を含む)…(6回)			・計画的に着彩していくことができる。 ・粗雑な着彩にならないようにできる。 ・構図、配色、表現の工夫等満足ゆく表現ができたか？ ・テーマの客観的アピール度は？完成度は？ ・内面を表現するおもしろさ、難しさが体験できる。				
後期中間試験			実施しない				
6 樹木のある冬の風景・スケッチ・彩色…(6回) 7 自画像のデッサン……(2回)			・冬の樹木を観察し樹の動きを表現できる ・冬景色の色数の少ない中から色を発見できる ・自己の内面に迫る自画像を描くことができる				
後期期末試験			実施しない				

機械工学科			物理				
学年	第1学年	担当教員名	浦家 淳博				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		物理現象を実体験として理解し、それを数量的、数式的にとらえる能力を養う。 科学的思考力を養うとともに、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。 1学年では特に波動、静力学を扱う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		四則演算(分数、比を含む)の筆記計算力が必要になります。副教材の問題を電卓を使わずに解けるよう、自習もして下さい。					
到達目標		波動、静力学の具体的な現象を視覚的、数値的に捉えることができる。					
成績評価方法		合否判定: 4回の定期試験の平均が60点以上であること。 最終評価: 合否判定と同じ。					
テキスト・参考書		教科書: 物理I(東京書籍, 文部科学省検定教科書) 参考書: ニューステップアップ物理I(東京書籍) チャート式シリーズ新物理I(数研出版)					
メッセージ		用語や記号を覚えてしまうことで、授業の内容の理解も早まります。 授業は、新しい概念を得るだけでなく、誤った概念や先入観を正す場です。 皆さんの楽しい雰囲気、活発な発言が内容を豊かにします。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
科学量の表し方 (3回) 数値表記 (3回) 数値計算法 (6回) 演習 (2回)				量記号、単位を記せる。 有効数字を理解し、科学表記で数値を記せる。 数値計算結果を有効数字で表現できる。			
前期中間試験				実施する			
波 (4回) 音・光の性質 (4回) ドップラー効果 (3回) 演習 (3回)				波を図示できる。 音と光の周波数や波長を計算できる。 ドップラー効果を計算できる。			
前期期末試験				実施する			
波の干渉 (3回) 波の反射 (3回) 固有振動 (4回) 演習 (4回)				波の干渉を図示できる。 自由端・固定端での波の反射の様子を図示できる。 弦や気柱内の固有振動を図示できる。			
後期中間試験				実施する			
重力、張力 (2回) 垂直抗力 (3回) 作用・反作用 (3回) 摩擦力 (3回) 演習 (3回)				物体にはたらく重力、張力を算出できる。 物体にはたらく垂直抗力を算出できる。 連結された物体にはたらく力を算出できる。 物体にはたらく摩擦力を算出できる。			
後期期末試験				実施する			

機械工学科			保健				
学年	第1学年	担当教員名	三島利紀・館岡正樹				
単位数・期間		1単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		生涯にわたって心身の健康を保持増進するための実践力の育成をする。(計画的に運動に親しむ資質や能力との関連性を含む)・生涯学習の意義の明確化につながる。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		課題学習においてはプレゼンテーションをするのでパワーポイントを使って発表する予定のグループはノート型パソコン及びCD-ROMまたはメモリー等を準備すること。					
到達目標		・性に関する正しい知識と理解ができる ・課題学習においてテーマの決定からプレゼンテーションを行うまでの計画性と実践力を身につけることができる					
成績評価方法		・性教育は「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポートを作成(30%) ワークシート2枚(各10%)、課題学習のプレゼンテーションにおいては、教員の評価(35%)と他グループによる学生の評価(15%)を合わせて総合評価を行なう。合否判定もこれに					
テキスト・参考書		教科書:現代保健体育(大修館) 資料:図説現代保健体育(大修館)					
メッセージ		5年生において、所属する学科の専門教育を生かした研究の集大成としての“卒業研究”があります。課題学習はその導入と考えております。常に、研究心を持って、何事にも積極的に取り組んでください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・ガイダンス、アンケート (2回) ・男女の性と性機能の違い(ワークシート) (2回) ・妊娠(ビデオ学習、ワークシート) (3回)				・1年の授業の流れと注意事項 ・同性及び異性の身体のしくみの違いを理解することができる。 ・受精から出産直前までの正しい知識を学ぶことができる。 ・各項目でワークシートを作成し授業内での個々の理解度を認識し、性に関する正しい知識を持つことができる。			
前期中間試験				実施しない			
・出産(ビデオ学習、ワークシート) (2回) ・沐浴体験、妊婦疑似体験(ワークシート) (2回) ・人工妊娠中絶(ビデオ学習、ワークシート) (2回) ・性感染症とその予防 (1回)  ・まとめ (1回) (課題)・レポート提出				・生命誕生についての正しい知識を学ぶことができる。 ・体験によって育児を実感することができる。 ・人工妊娠中絶の実態と生命の尊さを感じることができる。 ・身近で起こりうる病気であることを認識し、その実態と対処法を理解することができる。 ・「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポート作成することにより自己肯定感を養うことができる。			
前期期末試験				実施しない			
課題学習 ・個々がテーマを選択・決定するし、同じテーマの者が集まり1～6人による班を編成する (1回) ・各種テキストやインターネットを利用し、各グループでテーマに沿った情報収集を行なう (5回)				・テキストを使い、自分の興味を引き出すことができる。 ・人とコミュニケーションを取りながら班を作ることができる。 ・リーダーが中心となり、グループ内で協力しながら資料収集を計画的に実行できる。			
後期中間試験				実施しない			
課題学習 ・各グループで情報収集したものをまとめ、資料を作成する (4回) ・10分程度のプレゼンテーションを行う (4回) (パワーポイントの使用可)				・情報資料をまとめ、発表用の資料を作ることができる。 ・グループ内で協力して作業することができる。 ・役割分担をし、他の人にわかりやすいプレゼンテーションができる。 ・他のグループの発表を聞き、評価することができる。			
後期期末試験				実施しない			